

日本経済が期待している“女性の力”

理系女性の活躍フィールド



成長戦略の中核は「女性の活躍」

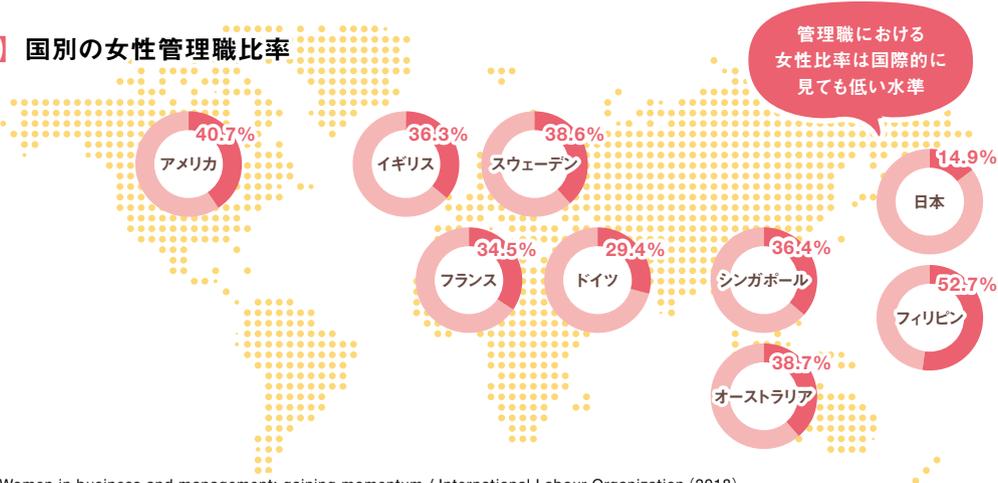
「女性の活躍」「ダイバーシティの推進」といった言葉をニュースなどで耳にすることが多くなりました。少子高齢化による労働人口の減少、グローバル化の進行など、日本経済はビジネス環境の大きな変化に直面しており、旧来の考え方や組織体制で企業が戦い続けることは難しくなっています。この問題を解決する一つのカギとなるのは、多様な人材を登用するダイバーシティの推進、中でも女性の活躍なのです。

政府も「女性の活躍」を日本経済における成長戦略の重要なテーマと考え、経済界を後押ししており、これを受けて女性の採用・登用を積極化する企業は増加傾向にあります。中でも理系人材が多く活躍しているメーカー、IT、インフラ、建築といった業界はもとも男性社員の比率が高いこともあって女性が働きやすい制度改善や環境整備に力を入れている企業が増えています。理系女性にとっては多様なキャリアを選択できるチャンスが広がっているといえるでしょう。

—— 本当の意味での「機会均等」に向け、本格化する女性の活躍

1986年に男女雇用機会均等法が施行されてから女性の活躍の場は増えてきたとはいえ、現在でも社員・役職者の女性比率は均等とは言い難いのが実情でした。日本において管理職に就く女性の比率は海外と比較しても低く、欧米が3〜4割なのに対して日本は1割程度に過ぎません。【図1・2】

【図1】 国別の女性管理職比率



(参照) Women in business and management: gaining momentum / International Labour Organization (2018)

【図2】日本における上場企業の女性役員数、女性役員比率の推移



※役員数及び役員比率は、各年の7月31日時点の値。
〔出典〕東洋経済新報社「役員四季報」(2021年版)から引用。

女性役員、管理職は増加傾向にあるものの、国際的に見るとまだまだ低い水準。

しかし、その流れは大きく変わろうとしています。多くの企業が女性の活躍を明言し、管理職の女性比率・人数を目標設定するなど積極的に女性を登用する動きが、いよいよ本格化しています。「女性の活躍」における明確な目標を掲げるだけでなく、本腰を入れて社内の環境整備や次世代のリーダー候補育成に取り組む企業が増えているのです。

女性活躍する企業は業績も好調

経済が右肩上がりの時代、「共通した属性の社員を集めて、同じ方向を向いて邁進していくのが効率的」と企業は考えていました。しかし、ビジネスの仕組みが複雑化し、消費者の志向が多様化する昨今においては、多様な価値観による発想力や変化に対する柔軟な対応力が企業には求められています。また、当然ですがマーケットにおけるユーザーの半数は女性。製品の企画・開発の場面などで、女性視点からの多様な発想・観点が不可欠といえるでしょう。実際、女性活用に積極的な企業ほど業績がいいというデータもあります。女性活躍に優れた企業(なでしこ銘柄)は、TOPIX(東京証券取引所市場第一部に上場している株式全銘柄を対象とした株価指数)のパフォーマンスを上回っています。

今後、様々なフィールドで理系女性への期待が高まっていくでしょう。「この仕事は男性ばかりだから」「この業界は女性の働ける環境が整ってなさそう」といった先入観を持つことなく、興味を持った業界・企業について調べてみてください。きっと、新しいキャリアの可能性が拓けるはずです。



理系女子注目!

就職活動の際に
チェックしたい情報

女性活躍に優れた上場企業を選定
なでしこ銘柄



子育て支援に積極的に取り組む企業を認定
くるみんマーク・プラチナくるみんマーク



女性活躍推進法に基づく認定マーク
えるぼし・プラチナえるぼし

